

最新研究でみる辛亥革命への多角的視座——辛亥革命 110 年シンポジウム

日時 2021 年 12 月 18 日（土）13:00～17:00

方法 一般参加者＝オンライン／登壇者・関係者＝対面（一部オンライン）

場所 Webex（オンライン）／東洋文庫 2 階講演室（対面）

主催 一般社団法人中国研究所、公益財団法人東洋文庫超域アジア部門現代中国研究班

参加 こちらの Google フォームより事前にお申し込みください（締切 12 月 16 日（木））

<https://forms.gle/K8fqyDDyuyyug6Yd8>

*参加費無料 *中国研究所所員・顧問は申し込み不要

2021 年 10 月で辛亥革命のきっかけとなった武昌蜂起から 110 年を迎えた。10 年前の 2011 年には 100 周年を記念して中国はもちろん日本でも各種の学会・シンポジウムが開催され、辛亥革命の総合的な研究が進展した。本シンポジウムでは、その後 10 年の研究の進展状況と成果を確認しつつ、単なる中国における政治変動にとどまらず、財政、社会、エスニシティーや国際関係など多角的な視座で、あらためて辛亥革命をとらえ直すことにした。

報告者には 30・40 代の各分野の気鋭の研究者を、コメンテーターには中国近代史・日本近代史研究に長年従事してきた研究者をそれぞれ迎え、海外在住の方を除き対面で報告・討論を行う。

登壇者・関係者以外の一般参加の方は、感染症対策による会場の人数制限により、オンラインでご参加いただきます。多くの皆さまのご参加をお待ちしております。

主催者挨拶・趣旨説明 川上 哲正（中国研究所）

報告 1（政治）：清末政治の歴史的展開から見た辛亥革命

八百谷 晃義（台湾・慈済大学）

報告 2（財政）：清末立憲改革期の国家財政と皇室経費

佐藤 淳平（岡山大学）

報告 3（日中関係）：辛亥革命と日本の外交——「国際協調」をめぐる

久保田 裕次（国士舘大学）

報告 4（満漢関係）：辛亥革命後の「清室優待条件体制」と清室、旗人社会——ラストエンペラー溥儀のいた紫禁城と北京

阿部 由美子（二松学舎大学・非）

報告 5（ムスリム社会）：愛国・信仰・面子——清末民初華北ムスリム社会における辮髪切除をめぐる議論と実践

海野 典子（早稲田大学）

コメント：村田 雄二郎（同志社大学）、櫻井 良樹（麗澤大学）

総合討論

司会：青山 治世（亜細亜大学）・関 智英（津田塾大学）